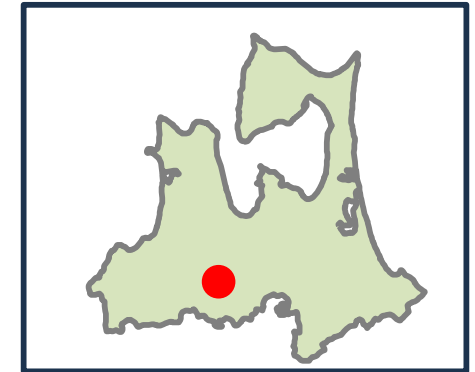


<施設概要>

- 事業実施主体：株式会社津軽バイオマスエナジー（青森県平川市）
- 施設名称：(株)津軽バイオマスエナジー平川発電所(青森県平川市)
- 発電設備：木質バイオマス発電プラント(敷地面積約5,900㎡)
発電施設棟
(中央制御室、流動層ボイラー、蒸気タービン・発電機、燃料貯蔵ヤード)、ほか
- 建設費：約27億円
- 運転開始時期：平成27年12月
- 燃料使用量：8.5万t／年（木材チップ）
- 木材チップ購入単価：11,000円／t（木材の種類によって単価設定）
- 発電出力：6,560kW
- 年間発電量：約40,000MWh（約14,000世帯分）
- FIT売電単価：13円～32円／kWh（木材の種類によって単価設定）



青森県平川市

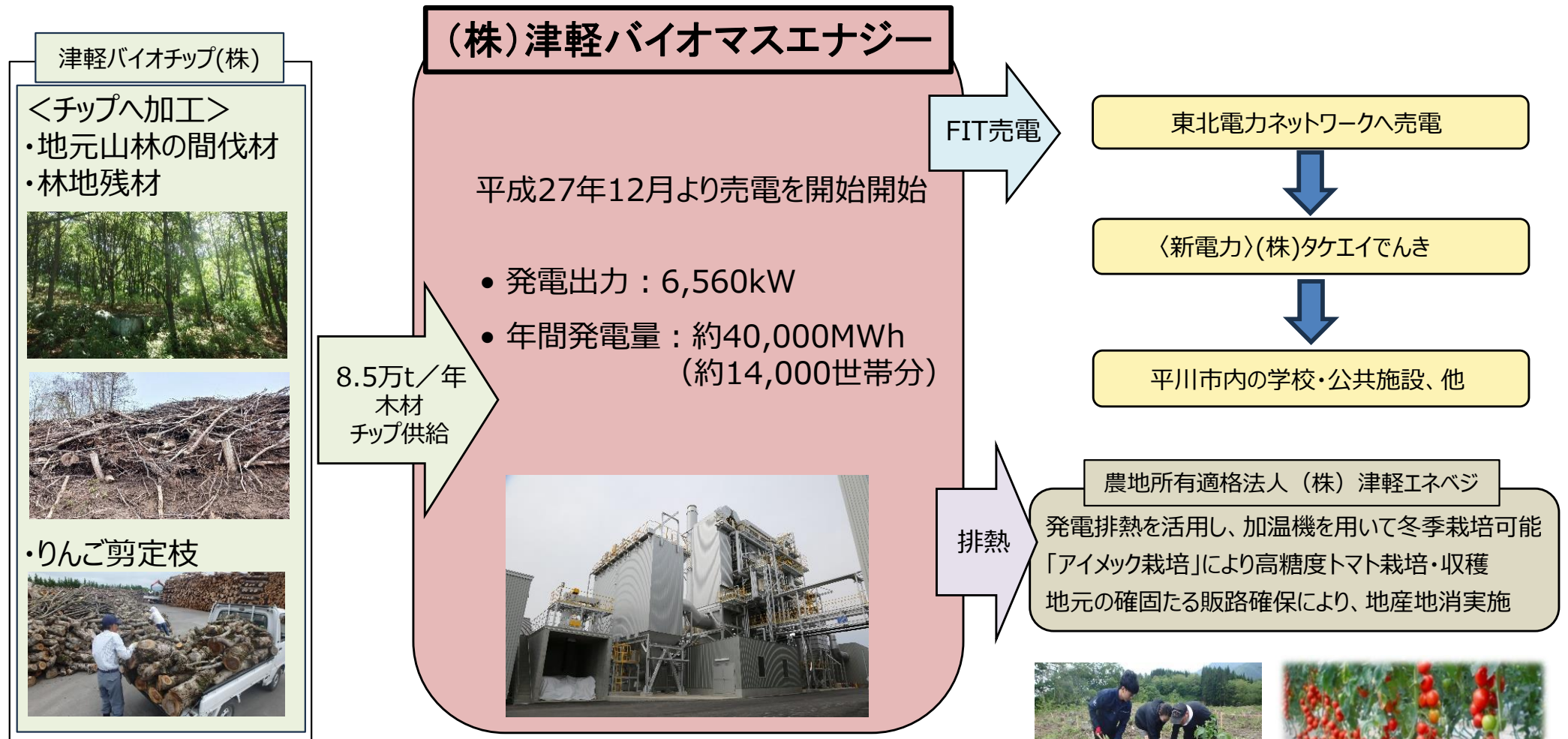


施設全景（会社HPより）

<取組の経緯・概要>

- （株）タケエイグループは、廃棄物収集・運搬、再資源化、最終処分までの一貫処理を実施。
再生可能エネルギー事業も推進しており、バイオマス発電事業第一号として本発電所を稼働し、平成27年12月より売電を開始。
- 発電した電気は、固定価格買取制度（FIT）により東北電力ネットワーク(株)を経由し、新電力である(株)タケエイでんきへ売電し、市内公共施設をはじめ東京都内へも供給。
- 地元の農林事業者等で設立された津軽バイオチップ（株）が木材チップを製造・供給。地元山林の間伐材のほか、りんご栽培の過程で発生する剪定枝も有効に活用。
- 平川市周辺に山林を360ha所有しており、山林の適正な管理と資源の循環を目的として、再造林事業を推進。また、山林に切捨て放置されている残材を燃料として活用するとともに、山林資源を次世代につなぐ取り組みとして植林活動を実施。
- （株）津軽エネベジを農地所有適格法人として設立し、発電に伴う排熱を活用した温水を供給して高糖度トマト栽培を実現。

木質バイオマス発電と電気・余熱の利用



・林業者の安定した販路確保、りんご農家の農地環境整備につながる。

・地域資源の有効活用は地域経済の効果も高く、地球環境の貢献も高い。従来山林に切捨て放置されていた林地残材（枝、葉等）も破砕し、発電燃料へ活用するとともに地拵え後に植林を行い、山林資源の循環にも注力している。

・排熱を活用した施設園芸の実施により、冬季の農業経営を可能とする。「アイメック栽培」により高糖度トマトの栽培・収穫を行い、地元での確固たる販路確保により、地産地消の循環へと繋がる。